

平成 27 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	06	02	02	0402	森林環境保全事業	
総合計画	分野	しごと				
	政策	1-1	農林業の振興			
	施策	5	森林の保全			
目的	民有林の保全					
対象	民有林（市有林・私有林）及びその赤松					
意図	民有林を保全する。					
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること						
<input type="checkbox"/> 森林病害虫駆除 赤松枯損木の伐倒駆除（焼却またはくん蒸） 市有赤松への薬剤樹幹注入作業 森林整備事業による樹種転換（市有林） 私有林赤松への樹幹注入に係る補助 <input type="checkbox"/> 森林管理維持増進 私有林の巡視						
市民参画の有無 [対象外]						
市民協働の形態		共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定		
		後援・協賛	補助・助成	<input type="checkbox"/> 委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
① 駆除材積	m3		計画	4,000	4,000	
			実績	5,584	3,795	
② 私有林巡回回数	回		計画	240	240	
			実績	176	176	
③			計画			
			実績			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
① 松くい虫被害面積	ha		目標	1,300	1,300	
			実績	832	760	
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		<input type="checkbox"/>	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
被害が減少することではなく、県が定める被害地域区分も先端地域から高被害地域に変更になった。 限られた予算と投下できる作業量から考慮すると全量駆除は困難であり、被害が激減することはないと考える。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	森林の機能維持、林業振興の妨げになる森林病害虫であるので駆除は必要。また、市街地域における生活に支障になる倒木を防ぐためにも必要な事業である。
	<input type="checkbox"/> 妥当である	
有効性	見直し余地がある	
	<input type="checkbox"/> 妥当でない	
効果性	成果の向上余地	被害対策防止のためのあらゆる対策を講じているが、根絶にはつながらない。しかし、事業を中断することは森林の荒廃から林業振興の停滞生活に支障を来す危険な枯損木が増加するので事業を継続する必要がある。
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある	
公平性	<input type="checkbox"/> 向上余地がない	
	事業費・人件費の削減余地	被害の蔓延化により、補助金の確保が困難になっている。駆除の方法や区域の見直しを検討し、効率的な駆除をすすめる。
	<input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある	
総合評価 …上記評価結果の総括	人件費の削減余地がある	
	<input type="checkbox"/> どちらも削減余地がない	
	受益と負担の適正化余地	市内全域で駆除しているので適正である。
<input type="checkbox"/> 受益機会の見直し余地がある		
<input type="checkbox"/> 費用負担の見直し余地がある		
<input type="checkbox"/> 適正である		
被害の蔓延化により、補助金の確保が困難になっている。駆除の方法や区域の見直しを検討し、効率的な駆除をすすめる。 より一層の計画的な駆除が必要である。（面的な一斉駆除等） 防除対策への転換が必要である。具体的には、守るべき松林の樹幹注入、市有林が率先し樹種転換を進める。		

平成 27 年度 事業説明資料

【 事後評価 】

担当部署 部名 農林水産部 課名 農村林務課 担当係長 藤原和也 内線 6,277

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

(単位：千円)

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	06	02	02	0402	森林環境保全事業

単位：千円

		26年度 決算額(A)	27年度 決算額(B)	28年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		72,079	64,813		△ 7,266
財源内訳	国・県	39,416	21,575		△ 17,841
	地方債				
	その他				
	一般財源	32,663	43,238		10,575

事業期間 ○ 単年度繰返 期間限定 [平成 年度 ~ 平成 年度]

部経営方針における目標
森林の健全な育成を図り多面的機能を発揮させる

事業開始の背景・経緯
平成8年度に市内で松くい虫被害が確認されたことにより、駆除及び防除対策を開始した。

事業概要
○森林病虫害駆除
赤松枯損木の伐倒駆除（焼却またはくん蒸）
市有赤松への薬剤樹幹注入作業
森林整備事業による樹種転換（市有林）
私有林赤松への樹幹注入に係る補助
○森林管理維持増進
私有林の巡視

事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等
県内の松くい虫被害の拡大は留まることなく県北まで拡大しており、本市においても被害は蔓延し高被害区域と位置付けられるようになった。
これまで、全量駆除を目標に事業を実施してきたが、駆除が追いつかない状況にあり、より計画的な駆除と防除対策の強化が必要になっている。
防除対策として、これまでの樹幹注入作業に加え、市有林の赤松の樹種転換を実施し、対策のモデルとしてPRしていく。

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

森林病虫害等防除事業 63,463千円

★ 松林を守る

市内のアカマツ林は、森林面積の2.2%をしめており、森林の機能を発揮する重要な因子になっているとともに、「南部アカマツ」として全国的に有名な産地であるなど地域経済に寄与してきました。

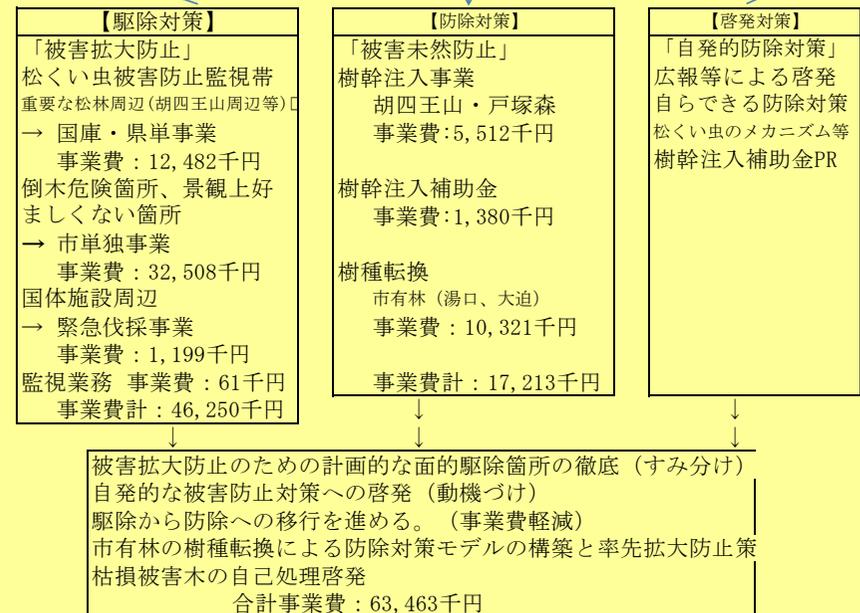
この過去から引き継がれた貴重な財産である「アカマツ」を守るため、平成8年度より病虫害対策を講じているところであります。

● 松くい虫対策の現状

被害拡大防止のため、駆除作業を重点に実施し「先端地域」として被害拡大を阻止してきましたが、被害が蔓延化し「高被害地域」に地域変更されるなど駆除が追いつかない状況にあります。現在、次のような対策を講じている状況です。

1. 国庫・県単補助事業費に加え、被害拡大防止等に単独費を導入。
2. 倒木により道路において通行に支障ある箇所や生活に支障の出る箇所の優先的な駆除の実施。
3. 守るべき松林の防除（樹幹注入等）や周辺の重点駆除

平成27年度の松くい虫被害対策



平成 27 年度事業説明資料

【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	06	02	02	0402	森林環境保全事業

(単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること 【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

事業費等詳細							
○森林病害虫等防除委託料							
【駆除分】							
	区分	補助率	事業量 ㎡	事業費	負担区分 国・県 市	備考	
国庫	森林病害虫等駆除事業	75%	481	10,697	8,022	2,675	
	森林整備事業（衛生伐）	75%	71	1,451	1,088	363	
	小計		552	12,148	9,110	3,038	
その他	森林病害虫等駆除事業（県単）	75%	13	334	250	84	
	市単独事業	-	1,107	32,508		32,508	
	小計		1,120	32,842	250	32,592	
合計①			1,672	44,990	9,361	35,629	
【樹幹注入分】							
	区分	補助率	事業量 本	事業費	負担区分 国・県 市	備考	
国庫	森林病害虫等防除事業	75%	264	3,888	2,859	1,029	補助対象外300千円
	森林病害虫等防除事業	75%	71	1,624	1,218	406	
合計②			335	5,512	4,077	1,435	
【樹種転換分】							
	区分	補助率	事業量 ha	事業費	負担区分 国・県 市	備考	
国庫	特殊地拵え	70%	4.77	7,553	5,287	2,266	花巻
	更新伐	68%	5.28	2,768	1,950	818	大迫
合計③			10.05	10,321	7,237	3,084	
【枯損木緊急伐採分】							
	区分	補助率	事業量 m ³	事業費	負担区分 国・県 市	備考	
県単	伐採および整理	75%	87	1,199	899	300	
	合計④		87	1,199	899	300	
①+②+③+④				62,022	21,574	40,448	
事業区域について							
駆除事業 【国庫】 「大迫地域」「花巻・石鳥谷地域西部監視帯」「守るべき松林周辺（胡四王、戸塚森）」を重点に被害拡大防止に努める。							
【県単】 上記国庫補助対象区域外で保全すべき松林の周辺徹底駆除							
【市単】 景観上好ましくない箇所、生活環境上、倒木等により生活に支障がある箇所（道路沿線等）（個人の庭木等は対象外）							
樹幹注入事業 【国庫】 保全すべき重要な松林（胡四王山、向山）							
樹種転換 【国庫】 市有林：「特殊地拵え」により実施し、翌年度に再造林する。							
枯損木緊急伐採 【県単】 国体施設周辺で景観上好ましくない箇所など							

○松くい虫樹幹注入補助金（市単）

薬剤購入に要する経費の1/2以内

H27実施本数 1,069本 1,380千円 （本数=使用薬剤本数）

参考：薬剤1本当たり3,300円/本（工賃H25使用薬剤本数実績 723本

H26使用薬剤本数実績 386本

森林管理維持増進事業費 1,350千円

- 業務内容 私有林の巡視により災害の未然防止、森林育成のための調査、松くい虫被害発見等に役立てる
- 巡視活動の方法 巡視員の業務期間は、契約期間内において47日/年とし、森林の外観パトロールを行う。必要に応じて所有者を同行し、森林内の調査、指導を行う。
- 巡視員 巡視員は森林に関する知識と地域の実情を把握し、森林施業の適切な指導及び監督ができる者でなければならないため、森林組合へ委託する。